

# 緑 樹

9 月 号

発 行 者

清川村立緑中学校  
清川村煤ヶ谷 1933

Tel. 046-288-1241

ホームページアドレス

http://www.kiyokawa  
-edu.jp/sch/midori-j

## 努力することの大切さ

学校長 小島 一浩

リオ・オリンピックでの日本人選手の活躍は、とても素晴らしいものでした。メダル獲得数もさることながら、選手一人ひとりがオリンピックにかける情熱や目的意識の高さに胸を打たれ、メダルを目指し競技する姿に感動しました。やはりオリンピックは、「世界のスポーツの祭典」だと思えました。

ところでオリンピックの歴史は古く、紀元前9世紀ごろつまり今から2800年前頃からギリシャで行われていました。これが古代オリンピックです。古代オリ

ンピックは、国々の争いで何度も中断されました。政治や国々の争いでスポーツ大会が中断されることは悲しいことです。そして、393年に古代オリンピックはなくなりました。

その後、1896年にフランス人のクーベルタンという人が、再びギリシャのアテネで平和の祭典として開きました。これが、現在まで続いている「近代オリンピック」の始まりです。クーベルタンは、オリンピックで大事なことは、「勝つことではなく、参加することに意義がある」ということを残しました。こ

このことばから、世界の国々から「オリンピックは平和の祭典」であるとも受け止められました。私たち人類が平和を維持し続けていくことは、世界の人々の共通した願いであって、その祈りを現実にしていく努力が人間の知恵のように思えます。

また、クーベルタンは、「人生において重要なことは、成功することではなく、努力することである。」「とて重要。」「とも言っています。

さて、緑中の生徒のみならず一人ひとりに「人生において重要なことは成功することではなく、努力することである。」「ということばがあてはまると思えます。成功することはもちろん素晴らしいことです。しかし、それ以上に尊いことは、毎日の生活の中で、自分なりの努力を続けていくことです。そして、その努力が、いつか必ず自分の未来を作ってくれるのだと思います。つまり、どのような未来になるかは、日々の努力によって決まると言うことで

一年生は、アイマスクをかけた級友に対してやさしく声かけができていました。階段の上り下りでは、特に配慮した行動が印象的でした。

また、二年生は、車椅子を扱うのが初めてという生徒もいて、戸惑う様子も見られました。簡単な段差等も作られていましたが、これが実際の社会の場であったとしたら、いかに大変なのかも体得しました。

三年生は、高齢者の装具を付けて歩いたり、財布の中身を数えたりしました。

このような体験は、実際その立場にたないとは分からない事が多く、大変有意義な活動だと思えます。この経験を活かして人権や福祉に対して意識をもつて臨んでいきたいです。



「ふるさとの四季」に取り組んでいきます。今回の演奏で得たイメージがきくと活かされることでしょう。

## 芸術鑑賞会

~GONNA (ガナ)さんを迎え~

2学期からの合唱練習で、

勇壮な和太鼓と情熱的なマリリンバの音にのせられて、七月十九日(火)に芸術鑑賞会がせせらぎ館で催されました。

今日の生徒の感想には、「GONNAの方々の頑張っている姿に心が温かくなりました。私も、GONNAさんのように気持ちをこめて何にでも一生懸命にやっていきたい。」といった言葉がありました。生徒達は、全力で取り組むことの大切さをしっかりと学ぶことができました。



俺たち一番、目立ってる？

1学期の終業式の日、七月二十日(水)に、みんなが楽しみにしているダンス発表会が行われました。これは、生徒の表現力の向上を目指して体育の授業の一環として行われています。全体で、十三グループの発表があり、芸能人顔負けのものから日頃、習っている空手やフラダンスを基調としたものなど色々バリエーションに富んだ内容でした。このダンス発表会で選ばれた作品は、文化発表会で再び演じられる予定です。

## ダンス発表会

### 恒例 清川ホームサマーフェスティバル



今年も、清川ホームのサマーフェスティバルが七月二十四日(日)に開催されました。緑中からも五十名以上の生徒がボランティアとして参加しました。当日は、例年より涼しく、過ごしやすかったです。賑やかなお祭りの熱気と生徒達の活気に満ちあふれたものでした。模擬店では、ポップコーンの機械が不調というトラブルもありましたが、利用者さんに大変楽しんでもらうことができました。

### うるこづけ作業

今年の青龍祭は、第三十回の記念の開催となります。それに先駆けて、八月七日(日)に緑小学校で青龍のうるこづけを行いました。

乾燥させたカヤの束ねたものを、龍のうろこに似せて竹の骨組みにつける作業ですが、どうしたら、うるこらしくなるかを考えながら行いました。

参加してくれた生徒達は、小学生や地域の青龍祭実行委員



の方々とは汗びっしょりになりながら、頑張りました。

作業後にいただいたおにぎりや漬け物が本当においしかったです。



国語の授業の中で、「自分と社会」との接点を見直し、体験したことを伝えるという授業がありました。その龍は、毎年多くの村の人たちの中で「青龍祭について」のスピーチをした三年生の口川結衣さんの作品を紹介しています。

みなさんは、青龍祭に参加したことがあるかと思えます。青龍祭は、わらで作られた二匹の雌龍と雄龍を火で燃やす雨乞いの行事です。

始まりは、雌龍と雄龍がお互いに会うために雨を降らせましたが、結婚して天に昇っていきました。江戸時代に晴れの日が続く、稲が枯れて困っていたときに、二匹の龍を作り川の淵に沈め、雨を降らせたと

わらで作られた二匹の雌龍と雄龍を火で燃やす雨乞いの行事です。始まりは、雌龍と雄龍がお互いに会うために雨を降らせましたが、結婚して天に昇っていきました。江戸時代に晴れの日が続く、稲が枯れて困っていたときに、二匹の龍を作り川の淵に沈め、雨を降らせたと

## 社会との関わりを伝えよう 〜青龍祭について〜

量によって毎年燃え具合が違います。花火が上がるのと燃えた龍の煙が昇ってゆくのがとても迫力があり、とてもきれいです。

私は、毎年青龍祭に参加して

ますが、うるこづけとパレードは、大変だけど、終わった時の達成感が感じられるのと地域の人

との関わりが深まるのが良いです。私たちが、地域行事に積極的に参加することで村全体活発になり、地域の人との関わりも増えます。青龍祭だけでなく、村の色々な行事に参加したいです。

## 想いを繋げる青龍祭



八月十一日(木)に青龍祭が行われました。今年は三十回記念ということもあり、様々な想いの込められた行事になりました。まず、午後1時過ぎに、青龍に魂を込める入魂式が緑小学校の校庭で行われ、玉串奉納では、生徒会の工

藤大地さんが生徒の代表として参加しました。

その後、村の方々や緑小学校の児童と緑中学校の生徒四十七名が力を合わせて雄龍と雌龍をかつぎ、大きなかけ声を出しながら、清川村運動公園までパレードを行いました。

本祭のクライマックスである昇竜の儀式では、緑中の生徒八名が代表として点火役を務めました。たくさん願いが込められた龍は、あつという間に昇天しました。

これからも清川村の伝統行事として、多くの方々と共に想いを繋げていきたいです。